

躍進

いきいき狭山人
びと

Reporter's Eye



リポーター
古谷幹子さん(下奥富在住)

市民の皆さんにリポーターになっていただき、市内の施設や市の事業をご紹介します。



昨年度に誘致した企業の建設が続々と始まっています

市の活気と活力の向上のため たくさんの企業を誘致して 狭山をもっと元気にしていきたい

自動車産業をはじめとする、数多くの優良企業が立地している狭山市。そんな私たちの生活を力強く支える企業を市内に誘致する仕事を行っている、企業誘致推進課でお話を伺いました。

狭山市には、二つの工業団地があり、工業都市として発展し、昭和57年から今まで、製造品出荷額などは県内でずっと1位を維持しています。しかし、近年の市の財政事情や雇用環境などを考えて、優良企業にもっと狭山市に来てもらうため、平成17年の4月に企業誘致推進課を新設し、取り組みをスタートしました。企業誘致推進課が特に力を入れているのは、情報の収集とPRをかねて、企業を訪問することです。職員の皆さんは、「行政マン」というよりも、一人ひとりが狭山市を売り込む「営業マン」という姿勢で取り組んでいます。企業誘致は、パンフレットなどでPRする

ことも重要ですが、企業に直接足を運ぶことが何よりも大切です。今までに誘致した企業の方からも、市の担当職員の熱意があったことも狭山市を選んだ大きな理由です」という声が多く聞かれたということです。



交通の便が良いのも狭山市の大きな魅力です

さらに、今後は、新規の企業誘致だけではなく、関係課などとも協力して、既存の企業への支援にも積極的に取り組んでいきたいとのことでした。こうした職員皆さんの努力の結果、2年間で14社の企業が新たに市内に進出しました。このことで、平成19年度は固定資産税・都市計画税だけでも概算で6千500万円もの税収が見込まれています。企業誘致推進課の予算は年間100万円以下、職員も課長以下4名という少人数なの

で、費用対効果の高さには、とても驚きました。また、企業を市内に誘致するメリットは、税収が増えるだけでなく、狭山市に移り住んでくると、雇用が生まれます。そうすることで、市外から狭山市に移り住んでくると、人口の増加をもたらします。現在は少子高齢化社会で、狭山市も少しずつ人口が減少していますが、企業を誘致し、働き手の若い方がたくさん移り住んでもらえば、もっともっと狭山市が元気になり活性化すると思います。私も以前は、市内で働いていましたが、市内には魅力的な企業はたくさんあると思います。皆さんも一度、市内の身近な企業に目を向けてみてはいかがでしょうか。

企業誘致推進課

問合せ内線7061

市民みなさんの声

オピニオン

喫煙はマナーを守って 歩きタバコを禁止する条例を作れませんか



沼崎美那さん
(入間川在住)

以前は、あまり気にならなかったのですが、最近、歩きタバコが非常に気になります。子どもが生まれて、子どもの目線で物を見るようになり、改めて歩きタバコの危険性を考えるようになりました。特に、駅前など人通りが多いところでは、すれ違うときに、とても危険だと感じます。大人がタバコを手を持っている位置は、ちょうど子どもの目線にありますし、タバコを吸っている人が近くにいるだけで、煙が漂ってくるので、副流煙も気になります。また、歩きタバコをする方は、ポイ捨てなども多いように見受けられます。以前、地面に落ちている、火がついたままのタバコを子どもが拾おうとしたので、ヒヤッとしたのを覚えています。タバコを吸うことが悪いことだとは思いますが、マナーを守ってほしいと思います。

最近では、歩きタバコに関する条例を作っている自治体もあるようですが、狭山市も条例を作ってマナーの向上の啓発などはできないでしょうか。

市の考え方

貴重なご意見をいただき、大変ありがとうございます。

沼崎さんのお話のとおり、歩きタバコは、ポイ捨ての原因になるだけでなく、歩行者にやけどを負わせたり、衣服を焦がしてしまったりなど、とても危険な行為です。そこで市では、歩きタバコを禁止する条例を制定できるように検討しているところです。これからも、市では安心・安全なまちづくりを目指してまいりますので、よろしく願います。

担当生活環境課

皆さんの「声」をお待ちしています。
お寄せいただく際は、住所、氏名、電話番号をご記入ください。☎2954 6262(代)
✉koho@city.sayama.saitama.jp

現在、6月2日に市民会館で市内のグループと一緒に、ハワイアンフェスティバルに向けて、練習に励んでいます。皆さん、ぜひ聴きに来てください。
問合せ 岡本教志さんへ
2952
6276

私の宝物 ...

夫との思い出...ベネチアングラス

私の宝物は、10年ほど前にイタリアへ旅行に行ったときに買ったベネチアングラスです。このグラスは亡くなった夫と一緒に買った思い出の品です。生前の夫は忙しく、な



長島麗子さん
かなか一緒に旅行に行けな(北入曾在住)かったので、この旅行が二人で出掛けた最初で最後の海外旅行でした。今でも、ときどきこのグラスでお酒などを飲んで、夫のことを思い出しています。



ワインなどを楽しんでいます

今回は、趣味の友人で、中央にお住まいの方をご紹介します。

Hello ハロー 仲間たち

Vol.308



昨年の夏休みには小学生にウクレレを指導

ウクレレ同好会・ココナッツ

私たちココナッツは、公民館のウクレレ教室がきっかけで、平成11年に発足した同好会です。現在11名が柏原公民館で活動しています。

ウクレレは小さくて、比較的扱いやすく、素朴な音色がでる楽器です。初めての方でも半年か1年ぐらいで、みんなと一緒に演奏できるようになります。簡単なゆえに始めてみると、奥深さを感じられるのが魅力です。週1回の練習は、みんなと一緒にハワイアンをはじめ、さまざまなジャンルの曲を歌いながらウクレレを奏で、音楽をとおして、仲間の親睦を深めています。

会では、文化祭や敬老会、老人ホームなど、多くの場で演奏を披露し、喜んでもらうことで目標ができて、普段の練習にも身が入ります。